

相模原商工会議所 景気観測調査結果

(2019年7月～9月)

2019年11月10日

業況DIは、前期に引き続き、全産業で低位に落ち込み、製造業を中心に景気の減退が本格化してきている。全業界で回復の兆しは見られず、小売業・卸売業は更なる悪化が懸念される。

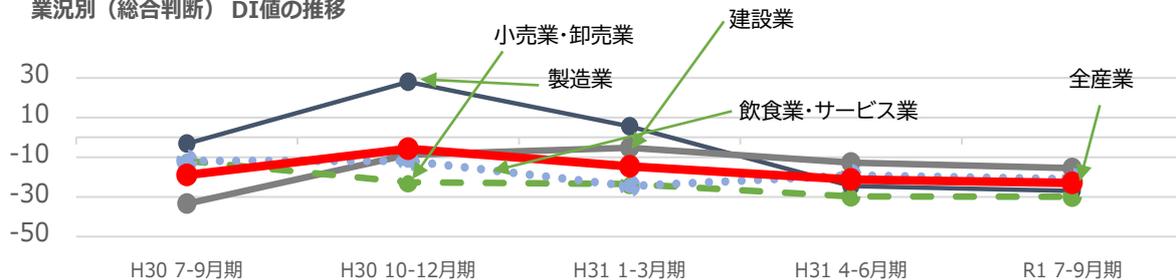
ポイント

- ▶ 2019年7月～9月期の総合業況DIは▲23と、前期▲21から2ポイントの悪化。製造業(前期▲24 今期▲27)、建設業(前期▲13・今期▲15)、小売業・卸売業(前期▲30・今期▲30)、飲食業・サービス業(前期▲19・今期▲21)とすべての業種で微減または横ばいの状況であり、前期に引き続き厳しい状況が続く。
- ▶ コメントによると、全産業で消費増税のプラスの影響(駆け込み需要など)はほとんどなく、製造業を中心に受注減少が深刻さを増している。その上、人件費と仕入単価の上昇が加わり採算性が悪化し、全産業で業況の悪化が続く。なお、小売業や飲食業・サービス業などの消費者向け事業では、消費税増税のマイナスの影響を心配する声がある。農産物を扱う業種や観光業では、夏の天候不順や災害によるマイナスの影響が見られる。
- ▶ 次期見通しについては総合業況DIは▲25と、今期▲23から▲2ポイントの悪化。製造業(今期▲27・次期▲28)、建設業(今期▲15・次期▲15)は現状維持の見通しであるが、飲食業・サービス業(今期▲21・次期▲23)、小売業・卸売業(今期▲30、次期▲33)は更なる悪化が懸念される。特に小売業・卸売業は30以下のマイナスに落ち込み、厳しい状況が続くことが懸念される。

各業界から寄せられたコメント

- 【金属、樹脂部品の切削加工】
・受注は、車両関係大手が海外展開の実施に伴い、大幅受注減。雇用は機械加工(マシンニング、フライス、施盤等)に従事を希望する方が非常に少ない。受注減。
- 【一般建設業】
・仕事はありますが対応できず、全体として現状のまま
- 【切り花、園芸品の小売】
・産地(特に千葉県)が台風により年末にかけて出荷量の減少が心配される。
- 【レンタカー、カーリース】
・レンタカー部門は、気候による変動が大きく、梅雨、台風の影響を受け、夏の最大需要期にかかわらず低迷した。

業況別(総合判断) DI値の推移



	前々期概況 (H31.1-3)	前期概況 (R1.4-6)	今期概況 (R1.7-9)	次期見通し (R1.10-12)
製 造 業	6	▲24	▲27	▲28
建 設 業	▲5	▲13	▲15	▲15
小 卸 業	▲24	▲30	▲30	▲33
飲 食 業	▲25	▲19	▲21	▲23
サ ー ビ ス 業	▲25	▲19	▲21	▲23
全 業 種 (総 合)	▲15	▲21	▲23	▲25

業況天気図凡例

DI値 31以上	DI値 30~11	DI値 10~▲10	DI値 ▲11~▲30	DI値 ▲31以下

調査期間：2019年7月1日～9月30日

回答率：28.6%

回答者数：1091社

調査対象：当所会員事業所3812社

<<景気観測調査>>

前年度同時期との景況を比較し、「良い/悪い」などの指標を数値化し景気動向を調査。「良い」の回答数の割合から「悪い」の回答数の割合を引いて算出した数値(DI値)を用いる。